ユーザーの好みを反映した接着剤の特徴を活かして

松永トイシ株式会社

松永トイシ㈱・佐藤公浩氏

「地域によって目地の厚みと接着面の加工の仕方が異なりますので、接着剤の使用に関しては全国的な施工基準というものがない状態ですね」と語るのは、松永トイシ株式会社（大阪府大阪市）の佐藤公浩氏。墓石業界における接着剤の歴史を20年以上にわたって見てきた佐藤氏は、業界全体における接着剤施工の広がりが十分ではないと考えているようだ。

「個々の石材店さんを見れば積極的に取り組まれているケースは少なくありませんが、墓石業界全体として考えると、広がりがちょっと足りないのではないかとも感じています。関東などでは鉛を入れて目地にも十分な厚みをとっています。目地用ボンドも使われているくらいですから。しかしながら、西日本エリアの中では、目地はできるだけ目立たないように施工するのが主流という地域もあり、1基建てるのに接着剤は1本あれば足りるという感覚もあります」。

20年ほど前に佐藤氏が営業で回った頃は、接着剤の必要性を感じないと言われることが多かったという。この20年間で墓石倒壊の震災被害が出てきたことによって、接着剤に対する認知度はかなり上がってはきたものの、使用頻度・使用量はまだまだ少ないようである。

「石材店さんによってそれぞれにこだわりを持っておられるところもあります。たとえば目地の色はほとんどがグレーだといっても、そこには濃淡があります。当社のMGボンドの場合はライトグレーで、大島石などの白御影石にマッチするモルタルに近い色味です。そうした色味を重視するユーザーさんもおられます。それから硬化時間は早ければいいというものでもなく、塗布した後で微調整ができる程度のものがいいという方もいます」。

一部に低価格のものが流通しているようだが、経済性を優先する小売店ばかりではないと佐藤氏。冬場でもスムーズに絞り出しができる操作性を支持してくれるユーザーなど、個々の好みが接着剤選びには反映されているようだ。

「モルタル施工にこだわっているユーザーさんに対して、もっとPRしていきたいと考えています。目地幅の確保と接着面の加工の仕方の提案も含めて、接着剤施工をアピールできればと思います。

当社の接着剤はずっと成分を変えていません。それだけ長く安心して使っていただいていることの証左だと言えるかと思います。これまでの震災の経験から言えるのは、やはり塗布量が重要だということです。各メーカーで変成シリコンの接着剤が主流になっていますので、さらに接着精度を上げるためにはプライマーの使用も考えてもいいだろうと思います」。

松永トイシ㈱の弾性マスチック接着剤「MGボンドP」「MGボンドスーパー」

施工で重要なのは塗布量そしてメンテナンスの課題

ナニワ研磨工業株式会社

ナニワ研磨工業㈱・小向愛一郎氏

「接着剤の使用に関しては地域によってバラバラですね。いまだにモルタルを塗っただけの接着しない施工をしている地域も存在していますし、石は倒れて当たり前という感覚も一部にはあるように感じています」と語るのは、ナニワ研磨工業株式会社（大阪府大阪市）の小向愛一郎氏。同社は九州地方や中国地方でのシェアが高く、昨年の熊本や鳥取での地震の被害状況も詳しく把握できているようだ。

「石材用の変成シリコン接着剤はメーカーによる差がほとんどありません。まず重要なのは塗布量。たっぷり使って施工することです。同じ大きさの墓石でも、東北は接着剤を5本使うのに対し、関西では1本しか使わないというケースも珍しくありません。熊本や鳥取での地震の後に一時的に接着剤の出荷は増えましたが、東日本大震災の時のようなずっと品切れ状態が続くということはありませんでした」。

東日本大震災と熊本地震や鳥取県中部地震とでは被害規模は当然違うものの、それを差し引いてもやはり地域差ということが影響しているようである。地震対策に関しての全体的な傾向としては、東高西低といえるのかもしれない。

「熊本などでは板石で組んだ地上式カロートの上に石塔が置かれるケースも多くあります。そうした墓石の構造的な要素も接着剤施工が十分に浸透していない背景にあるのかも知れません。

しかし、せっかく接着剤を使ったのに接着不良で倒れてしまうのはもったいない話ですから、接着剤を使うのであれば、惜しまずにたっぷり使っていただきたいと思います」。

接着剤の流通量を割合で考えた場合、東日本と西日本では7対3くらいになるのではないかと小向氏。西日本での接着剤の需要が伸び悩んでいるのは、各社とも同じ傾向ではないだろうか。

同社が現在取り組んでいる製品開発としては、二つの観点での案件があるようだ。ひとつは新規建墓において施工がスムーズに行なえる観点から、もうひとつは接着剤の経年劣化に対応したメンテナンスの観点からである。

「新規のお墓に関しては、墓石の傾きを気にせずに楽に施工できるシート状のものを考えています。また、変成シリコンには耐用年数がありますから、一定の期間が経過したお墓についてはメンテナンスが必要になってきますが、その際に古くなった接着剤を除去するのは石材店さんにとって大変な作業になります。それを手軽にできるような新商品を開発中です」。

ナニワ研磨工業㈱の弾性（変成シリコーン）接着剤「耐震くん」

原石から加工、施工まで、
お手伝い致します。

- 内外産原石
- 石碑
- 神社鳥居
- 記念碑
- 庭灯籠
- 石工事一式

卸

◀（施工例）西山大宝塔

石の文化を創造する
株式会社 村松石材
本社 京都市中京区壬生下溝町51番地
電話(075)313-6669番・FAX314-2001
ホームページ http://www.muramatsu-stone.co.jp
Eメール info@muramatsu-stone.co.jp

安心・確実!
墓石処分のことなら
「㈱美匠」に全て
お任せ下さい!
廃棄物管理士が在籍している専門許可業者!
棹石・台座・石質・大きさ等、一切問わず　t=10.000円
関東エリア　t=12.000円にてお引取りさせていただきます。（積込・処分費込）※条件により別途交通費
※とてもお得な2ｔ車、4ｔ車料金もご用意しております。
株式会社 美匠
Bishoo co.,ltd.
お客様サポートセンター　〒634-0075
奈良県橿原市小房町 9-24 オブジェかしはら
スマートフォン対応
イシ　コイ　サンキュー
0120-14-51-39
http://www.bishoo.co.jp/
詳しい資料等もございますので、お気軽にお問合せ下さい。

鳥居専門
柱の寸法6寸から
2尺までのものなら
鳥居作り専門機
械による納期迅速、
奉仕製作します。
神社仏閣用石製品製作
有限会社 丸吉 吉田石材
代表者 吉田秀徳
〒444-0936 岡崎市上佐々木町中切67
電話（0564）31−3260番
FAX（0564）31−9253番

OCHIHISA GROUP
熟練の石職人から
次の世代へ
大島石の
越智久
大島石特級採掘元
〒794-2201
愛媛県今治市宮窪早川1077番地
TEL.0897-86-2541 / FAX.0897-86-3458
各種寸法原石を常備／小口配達も致します
http://ochihisa.com/　（株）越智久石材センター、（有）越智久産業、（株）新愛興産業